

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2791600022		
法人名	有限会社 コミュニティハウス		
事業所名	グループホームめいの家		
所在地	大阪府吹田市五月が丘北6-12		
自己評価作成日	平成 25年 1月 22日	評価結果市町村受理日	平成 25年 3月 18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&JigyosvCd=2791600022-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 2月 23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●家族会が発足し、家族のイベント参加が増えましたので、体調管理をし、今年もしっかり計画をたてて、全員で旅行に行きたいと思えます。●各行事に自治会の参加、共同主催が根付いてきました。今年も子供会や自治会と一緒にがんばっていきましょうと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に根ざし、心豊かに暮らしていこう!」を理念とし、出会った全ての人の夢を叶え続けています。年間を通しての様々な行事やイベントには、大勢の参加があります。参加する子ども達が利用者に自然に接するようになり、地域での認知症に対する理解が深まっています。職員も行事を通じて地域とのつながりを築く大切さを学んでいます。今年、家族会が発足し、大掃除の手伝い、忘年会の参加、職員とのコミュニケーションなど、活発な活動がホームへの大きな応援団になっています。看取りの経験もあり、「ここで看取ってもらいたいと言ってもらえるのは私達の誇り」と職員は考えています。「ホームの自慢は職員です」という管理者と職員が、利用者の夢の実現に取り組んでいる毎日は、いつもどこからか笑い声が聞こえてくるグループホームの暮らしです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域に根指し、心豊かに暮らしていこう！」を理念としています。「ここに来てよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」いろんな「よかった」を応援し、地域の自治会、子供たちの協力を得て、夢叶う明日に向けて取り組んでいます。</p>	<p>「地域に根指し、心豊かに暮らしていこう！」を理念とし、「ここにきてよかった」「あなたに会えてよかった」「生きていてよかった」いろんな「よかった」を応援しています。理念は事務所に掲示し、日常的に職員が確認できるようになっており、管理者は理念の中の思いを言い続けています。運営推進会議や行事の企画の際も理念に触れ、地域の方たちにも理解してもらうように努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>自治会に加入し、役員も務めています。地域主催の運動会のリレー参加、五月ヶ丘の夏祭り出店等積極的に参加しています。今年の夏祭りは、自治会とめいの家とで合同開催しました。また、11月のハロウィンパーティーには子供たちが仮装をして参加してくれ、12月のお餅つきにも地域の方々がたくさん参加してくださいました。開設時より飼っている犬の散歩を通じてご近所の方々との交流も多くあります。</p>	<p>年間を通しての様々な行事やイベントは、地域の方々の中に定着し、毎回大勢の参加があります。ホームの駐車場で焼き芋会が行なわれ、近隣の方が家族連れで参加し、にぎわっています。また、参加した子どもたちも利用者と自然に接しています。年末には毎年、隣の地区での夜回り（火の用心）で50人分のおでんの注文があり、「めいの家のおでん」と好評です。手芸品を買いに行った利用者のために、店員がさりげなく椅子を出してくれたり、自治会の方が、行事と一緒に参加していた子どもたちに、「お年寄りを優先すること」を教えたり、地域の理解もより広がっています。職員も行事を通じて、地域とのつながりを築く大切さを学んでいます。</p>	<p>認知症サポーター研修の実施が、認知症であっても、安心して暮らし続けられる地域作りに繋がることが期待されます。また、今後は更に地域から介護の専門施設として、頼りにされる存在になることが期待されます。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>自治会長、民生委員と共に地域社会で暮らす高齢者をお誘いし昼食に招待し、自治会会合を、ホームデイサービスフロアで開催することもあります。又、事業所内で介護実習や車イスに乗ってみよう等の取り組みもしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会役員・自治会役員・Dr.・Ns.・地域包括センター職員・GH職員が集まり、2ヶ月に一回開催しています。施設の行事を軸に地域・医療等さまざまな視点から話し合っています。	家族会役員、自治会役員、医師、看護師、地域包括支援センター職員等の参加で、2カ月に1回開催しています。行事の企画に助言をもらったり、地域との連携について協議したりしています。看護師から、その季節に流行っている感染症について、話をしてもらう機会になっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回のグループホーム連絡会への積極的な参加、市主催の介護フェアへの参加等を行っています。又、市担当者、近市グループホーム職員との情報交換を行い質の向上に取り組んでいます。近隣のグループホーム等には、焼き芋など催しの時にお手紙をだしたりして、お誘いしたりもします。又、ケアワーカーズクラブを発足し、吹田中のグループホームの職員に声をかけ、さまざまな研修に取り組んでいます。	市の担当課とは、常に連携を図り相談できる関係を保っています。市が主催する介護フェアでは、認知症への理解の話を担当しています。管理者は、市内のグループホーム連絡会の世話人を務め、同業者の横の連携にも積極的に取り組んでいます。市内のグループホームの職員で作る「ケアワーカーズクラブ」の中心として取り組み、研修や情報交換を行い、各事業所の質の向上に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の意味を理解し、禁止の対象となる行為を考え、話し合う機会を持っています。面会時に家族とも話し合いの機会を持っています。</p>	<p>身体拘束や高齢者虐待に関する外部研修には、積極的に参加しています。言葉による拘束についても敏感になり、利用者の人権を守るケアを徹底しています。各フロアのエレベーター、玄関は施錠せず、自由に出入りできる状態です。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待事例から考える外部研修に参加し、それを又、内部研修として全職員に伝えてもらいました。法制度を理解し、全員で意識を持って取り組んでいます。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度利用中の利用者を受け入れているので、社会福祉協議会職員と協力し、職員との話し合いを常に持っています。全職員に制度を理解してもらえよう話し合いをしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を見ていただき説明しています。理解を得られるまで細部に渡り説明し、幅広い情報の提供を心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今年度は家族会が発足しました。出来たばかりなので家族だけでなく、職員とも話し合う機会が増えました。家族会役員の呼びかけで、たくさんの家族が行事に参加してくださったり、大掃除をして下さったりしています。面会時に声をかけ、電話等で意見・苦情を聞き取っています。職員にはミーティングなどで情報提供し、問題発生の際は、早期解決を今までと変わらず続けています。	今年度は家族会が発足し、「家族が主体的にホームの活動に関わっていく体制を作り、『連帯』の第一歩の年に」というテーマで活動してもらっています。家族会による大掃除や忘年会への参加、職員のコミュニケーション等、これまでにできなかったことが家族会の支援により実現しています。「トイレが汚い」「階段が汚れている」等の指摘も真摯に受け止めて対応しています。家族会の発足により、家族とは何でも言い合える深い関係になっています。	今後の家族会の充実がホームの運営とのより一層の連携、協力を深め、利用者の暮らしのさらなる豊かさに繋がることが期待されます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議・各フロア会義で意見を聞くようにしています。又、管理者は個別に職員と話し合いも行っています。	全体会議、フロア会議、各部会会議、行事委員会等、職員が意見を言う機会が多くあります。職員各自で強み・弱み・目標などを自己評価し、アセスメントに基づき、施設長がケアプラン風様式に「ワーカーズプラン」を作成して育てています。管理者は、「このホームの自慢は職員です」と職員を誇りに思っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>今後、職員個々の努力や実績等を把握、査定することが出来るよう基準作りをしました。各自が向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めていきたいです。今年も職員全員のワークズプランを作成し話し合いました。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回、内部研修実施。内容はさまざま、介護技術・医療・緊急対応・食事・入浴について等様々です。又、職員より希望のあった研修内容も取り入れています。他に新人職員に対しては新人研修を実施しています。職員一人一人に研修ファイルを配布、外部研修を受講した場合には記録を作成し、職員会議にて発表し内部研修としています。又、介護福祉士合格に向けて勉強会を開催、資格取得に取り組んでいます。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市が主催するグループホーム連絡会・ケース検討会議・地域連絡会議・担当者会議等に参加し、情報交換を行っています。ケアワーカーズクラブでは、他施設と合同の介護技術演習も行っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時より担当になるCWが細かく、本人の希望・夢・生活歴を聞き取り、ご家族と共に本人の安心を確保するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い・考え方・希望問題点等を聞き取り、日々の生活を共に考えるようにして、信頼関係を築く努力をしています。何でも言い合える関係作りを目指しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入念な聞き取りをします。常に必要なことは何か、最優先することは何かを、広い視点で考えるよう努めています。その上で、日々の変化等をスタッフ全員で共有し、一日も早く落ち着いた生活ができるよう見守っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自慢できること・得意なことは、皆に教えてもらい、苦手なことは、皆でサポートする関係を大切にします。「やってみよう」という気持ちで取り組めるよう、楽しめるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会発足で行事に参加して下さる家族の方が増えています。又、ケアプラン担当者として、ご家族の名前があがるなどし、月に2～3回マッサージをして下さる家族さんもおられます。面会時などに不安や質問などを聞き取り、信頼関係を築いていく努力を続けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	部屋には、自宅で使っておられたタンスや布団、大切にしておられた物や写真を持って来てもらうようにしています。友人や自宅近所の方にも行事をお知らせしたりします。面会時間は特に設けず、気軽に立ち寄ってもらえるようにしています。	馴染みの友人・知人が訪問しています。以前から通っていた手芸店へ買い物に行く利用者もいます。1階のデイサービスセンターに通い、顔なじみの方に会えるのを楽しみにしている利用者もいます。マージャンやカラオケを一緒に楽しんでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いつも利用者同士の仲に入っているわけではなく、個々の関係を大切に见守っています。又、コミュニケーションが行き違わないよう援助することを心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	過去に、特養への転所がありました。休みの日に職員がうかがったり、季節ごとに手紙を出したり、家族にも定期的に電話やメールで様子をうかがっています。又、何かあった時には、相談してくれるよう常に伝えていきます。この一年間で退所者はありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートにある項目を、担当職員がじっくり聞き取る所から、一人一人の夢や、これからの生活に対する希望を探し、夢叶うよう支援しています。	アセスメント表、ホームでの生活、ライフヒストリーが一式になった利用者情報から、一人ひとりの思いや希望を共有できるようになっています。情報は、1年毎に更新されています。「母親は宝物」と言われる家族の思いから、月に1回外泊し、家族とともに過ごし続けることができるよう支援している事例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートにある項目を担当職員がじっくり聞き取り、見えてきた生活歴・性格などから、家族と共に考える時間を持つようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全員、日々の過ごし方はさまざまなので、一人一人に対応できるよう心がけています。又、日々訴えもさまざまなので個別に聞き入れる余裕を持ち対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本筋は「本人の夢を叶えること」。家族の要望も含め、今一番大切なこと、今一番必要なこと、楽しく暮らすための課題を常に探しています。	「希望を叶えること」を基本視点として介護計画を作成しています。日常的に支援していることが介護計画になっていて、一人ひとりの生活状況や表情が伝わる介護計画です。長年職業婦人として働き続けてきた利用者の介護計画には、「頼れるおばちゃんが生きて動き姿が目に見える介護計画」として、「役に立っていることを実感する」「大声と一緒に笑う」などがあげられています。3か月毎に更新を行い、ケース会議でモニタリングを実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はもちろん、それぞれの階の連絡ノートを活用しています。又、問題がある場合は、早急に集合し、全員で話し合うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナル期の家族の宿泊、行事への参加、近隣参加、行きたい所へ、行きたい時に行きたいと言えるように、どんな訴えでも伝えることのできる、わがまま言える居場所作りをしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーマーケット・お好み焼き屋・喫茶店などに行きます。外出することで、挨拶を交わすなどをして、地域の方との交流も大切にしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週水曜日の午後、往診ドクターの診察があります。又、精神科・眼科等は地域のかかりつけ医を作っています。家族と職員が同行し、安心して受診できるよう配慮しています。	入居前のかかりつけ医の医療機関へは、希望があれば受診可能です。ホームの協力医の往診が毎週あります。看護師の支援もあり、職員は連絡ノートを活用し、利用者の健康に関して相談や指示をもらったりしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医療連携の医師と訪問看護師との連携と、「いつもと違う」という介護士の状態変化の気づきを大切に、少しでも早く適切な診察を受けられるように、一丸となって努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携医の最終判断により、入院を決定することが多いですが、入院後は家族と職員が常に連絡を取り合い、入院先の主治医の意見・経過等も一緒に聞き、一日も早い帰所に向けて、積極的に支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、Drより指示のあった段階で家族と話し合いを重ね、Dr・NS・CW・家族(本人)同席の元、方針を決定しています。そして、職員全員で(ユニットの違う職員も含)看取りを考え、進めます。又、延命するかどうか、看取りについての希望確認書を入所時に家族に実施しています。希望確認書の意向の変更は随時可能です。	終末期に関しては、医師から指示があった段階で、家族・医師・看護師・ホームで話し合います。これまでに数名の看取りを行いました。職員採用面接の際には、看取りを行うことがある等の説明をしています。職員は、「ここで看取ってくださいと言われるのが誇り」と自信を持っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として、誤薬事故防止研修会、吹田市歯科医師会の方に来ていただき口腔ケア実践講座を行いました。又、ケアワーカークラブと称して外部のグループホーム職員と共に随時行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年、5月・11月に消防の方に来ていただき、避難訓練を実施しました。5月の避難訓練の時には、自治会役員の方、子供達も参加してくださいました。	年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の協力を得て実施しています。訓練には、地域住民や子ども達も参加し、消火器や昇降機の使い方を訓練しています。スプリンクラーは設置しています。災害時に備えて日頃から、利用者の誘導の仕方などを練習しています。長崎県のグループホーム火災事故の報道後、自治会から問い合わせがあったり、近隣からも声をかけられる等、地域からも心配をしてもらっています。非常時の水や食料は準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いを実現すべく、情報収集し、常に何を願い、求めているかを知るための努力をしています。	利用者一人ひとりの暮らしのペースを尊重し、自由に過ごしてもらおうようにしています。利用者の尊厳を守る研修も実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	忘れてしまうことが多くなってくると、なかなか、以前していたことや、したいことが言葉になって表れません。雑談などしながら、思っていることを引き出すことも大切ですが、今までの生活の中で、習慣としていたことも大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は、起きておられる方からで、特に時間は決めていません。昼食は12時に席につきますが、それも決まりはありません。夕食も、お腹がすいたら…という感じです。入浴は入りたい時間に、日にも特には決めていません。ペースになる個々の生活を把握し、それぞれの日常と関わりをゆっくりと過ごしてもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分で洋服を選んでもらうことで、本人の好きな物を理解し、一緒におしゃれを楽しんでいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器を軽いものにしたたり、使いやすいものにしたたり、個人の力を活かしながら、職員も一緒に食べるようにしています。又、ご自身で準備・片付けができる方はおられません、ご自身で食べることを促し、楽しい食事時間になるよう努力しています。	材料はデイサービスの厨房で発注し、各階で調理しています。行事食の際は、デイサービスの利用者も一緒に食べます。地域の子どもたちとふれあいながら、餅つきや焼き芋などのイベントの際は、普段見られない食事への意欲を見ることができ、家族や職員みんな喜びあっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表は日々つけています。食意が低下した人、体調の悪い人は、食事量も記録しています。水分は、好みや嚥下状態があるので、その人それぞれに応じた飲み物を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週火曜日、訪問歯科医・歯科衛生士に治療・口腔内清潔にしてもらいます。歯医者でできることは、すべて可能となったので、実際に治療もしてもらっています。歯科衛生士にアドバイスをもらい、日々の口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿漏れのある方はパンツの中にパットを使用、尿意のない方・定かではない方は随時トイレへの誘導を行っています。気持ちよく日々を暮らすため、排泄の工夫は丸くなってやっています。	基本は、布パンツを履いてもらっています。誘導が必要な利用者には、一人ひとりの排泄状況を把握し、随時声かけを行い、誘導しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まず、食物繊維の多い食事、足りない所は、イージーファイバー・オリゴ糖・ヨーグルト等を楽しんで食べてもらうようにしています。適度な運動（散歩・買い物等）の促し、十分な水分摂取を意識して行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっていません。週に2～3度は最低入ってほしいと思って行きます。意思決定できない方は促しますが、決定できる方においては入りたい時対応です。	入浴日は決まっておらず、本人の希望に合わせて入浴できます。入浴間隔がわかるよう、介護記録に記入しています。併設するデイサービスの浴槽を借りて、皆で入浴を楽しむ機会があり、利用者の誘いで、職員も一緒に入り楽しむこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	意思決定できない方においては、午前・午後と休息時間をもうけています。夜は1h/1回巡回し、眠れない夜が続けば、ホットミルクなど一緒に飲んだり、話をしたりして過ごします。意思決定できる方は促しで、後は本人の生活習慣に合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がどんなに怖いことかをホームDr.から話してもらい、利用者の薬に興味を持てるようピルブックも各階に置き、処方箋も必ずしっかり眼を通し、薬に変更があった時には個別記録に記載し、周知徹底しています。服薬マニュアルを全職員参加で作成し、誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものをたたんでもらうなど、個々の役割があります。そして、コーラなどの嗜好品を好んだり、雑誌を読んだり、好きなことを楽しみながら、意欲をだせるように考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画が必要な場合には入念な会義をしますが、日々、今日は何をしよう、どこへ行こうと考え、実施することが生活と考えますので、特別なものはありません。ただ、家族の協力は不可欠です。外出・面会状況の記録は、業務日誌に記載するようにしています。	家族の方も参加される年1回の1泊旅行や花見、自治会との夏祭りや地域の運動会等があります。一人ひとりの希望にそった外出支援も大切にしています。毎月の外泊、愛犬との散歩、日用品の買い物、馴染みの手芸店や居酒屋等への外出を楽しんでいます。ホーム玄関先の駐車場での「焼き芋」「お餅つき会」等は、近所の方も子ども連れで参加され、普段の生活の中で外に出る機会や、地域の方とのふれあいの機会にもなっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理し、領収書で月一度家族に報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙や電話はあまりありませんが、職員が家族あてにかけた時には本人にもかわっています。家族から贈り物が届いたとき、記念日、体調不良時、体調が良くなった時、外出予定が決まった時、買い物をする時、家族に会いたい、話したいと訴えがあった時などです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれが使いやすいように配慮する努力をしています。たとえば、椅子の座面を調整したり、椅子を座りやすいものに変えたり、入浴時の椅子も個々に使いやすいものにしてあります。利用者と一緒に相談しながら窓の開閉をし、TVやCD・DVDをつけるようにしています。	一人ひとりが居心地良く安心して過ごせるように工夫をしています。リクライニングチェアや回転いすは利用者が気に入っています。利用者の状態に合わせた机の高さの調整や各種の入浴椅子等使用しています。トイレは、家族の意見を取り入れ、防臭効果の高い掃除方法にしました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで一人になることがあるとすれば、皆がご自分の部屋に帰ってしまった時だけです。CWと2人で話したい、利用者同士内緒で話をしたい、一人になりたい時は、リビング横の事務所か、それぞれのお部屋を使っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で使っておられたタンス・仏壇等を持って来られています。これまでの生活で、布団で寝ておられた方には、毎日、布団を敷き対応しています。それぞれの方のこれまでの生活を考えながら対応しています。JAZZが好きな方は、部屋にJAZZを流し、落ち着ける雰囲気作りをしています。きれいに片づいているだけが良いと思わないので、いろいろな所に支えがある、物のいっぱいある部屋が落ち着く方もいます。それぞれの方のこれまでの生活を一緒に考えています。	居室には、家具やテレビ等の家電製品等、自宅で使用していた馴染みの物を自由に持ち込みできます。畳の部屋の方や絨毯の部屋で、布団を敷かれる方もいます。居室には、タンスや仏壇、テレビ、好みの衣類や配色の品々等があり、落ち着いて安心して生活できるよう、これまでの生活習慣を大事にした、個別性のある部屋になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>部屋の出入口は少しスロープになっているし、浴室は段の大きな階段になっているので、原則バリアフリーではありません。その度声をかけながら生活しています。また、スイッチカバーを変更し、より安全に生活できるよう工夫しています。特に個別の道具の工夫はありませんが、「ワーカーがそばにいること」「ワーカーが声をかけること」が安全に繋がればと思います。</p>		